

TSUBASA PROJECT

～『地域の魅力』を新たな観光資源に変え、『WAKAYAMA』のブランドアップを図る～

みなさんこんにちは。

私達は日本から来た、和歌山県立那賀高等学校放送部です。私達の部では、ドラマやドキュメンタリーなど、テレビ番組やラジオ番組の制作を行なっています。地元和歌山を拠点に活動し、暖かな気候や豊かな自然、みかんをはじめとする特産物など、映像技術を駆使しながら地域の魅力を世界に発信しています。このような

『WAKAYAMA』ブランドを浸透させるべく、地方自治体や地元企業との連携を図りながら、映像を通じた新たな観光資源の開発などに取り組んでいます。私たちの活動は県内外だけでなく、世界に向けての和歌山の発信に貢献しています。

さて皆さん、「和歌山」ってご存知でしょうか。

和歌山県には三つの注目すべき点があります。まず、和歌山県は大阪府の隣に位置し、関西国際空港からのアクセスが便利で、わずか40分の距離ということです。それから、日本でも有数の温泉地であり、多くの観光客が訪れているということ。そして、高野山・熊野三山を含む「紀伊山地の霊場と参詣道」が、2004年にユネスコ世界遺産に登録されていることです。しかし残念ながら、大阪や京都・奈良といった「関西」に比べ、海外への認知度はまだまだ低いのが現状です。

そこで、私達が考えたのが、自分たち自身の力で和歌山の魅力をPRするという企画。

今回の『TSUBASA PROJECT』です。

『TSUBASA』は、日本語で翼を意味します。ローカルな情報を広く発信し、映像という媒体で和歌山の魅力を世界に届ける翼になりたい、そんな願いを込めました。私たちは「地元力」を大切にしています。地域の旬な情報をキャッチし、その都度現場に足を運んで情報収集を重ねます。そしてこれら発信し、世界中の人たちと共有する。何気ない地元ローカルの情報も、新たな交流に繋がる可能性がある。そんな地域そのもののもつ魅力を活かして、さらに豊かにしていきたいと私達は考えています。

私たちの部のモットーは、「いろんな交流を、いろんな方法で」。映像作品を通して、今まで気付かなかった身の回りの「地域の魅力」を、自治体や企業など、地域の人々と一緒になって発掘・再発見していくこと。そしてそれを磨き上げ観光資源へと高めて、日本全国、さらには世界各国から人を呼び込むこと。これが私たちNAGA-B.C.Cが目指す、DMC (destination management company) の形です。情報技術が発達し、地方創生の時代が訪れている今、さらにこの動きは全国的に加速していくものと思われま

昨年の訪日外国人の数は過去最多の1341万人を記録しました。東京オリンピックが開催される2020年には2000万人を超えることが見込まれています。東京だけでなく、地方へ外国人旅行客をいかに呼び込んでいくかが今後の重要なテーマになると思います。多様な価値観を持ったお客様がやってくるなかで、地元の人たちが気付いていない日本の魅力、地域の魅力を掘り起こし、私たちの力で発信していきたいと思います。

それでは最後に、TSUBASA PROJECTのプロモーションビデオをご覧ください、このプレゼンテーションを終わりにしたいと思います。

最後までお付き合いいただき、誠にありがとうございました。